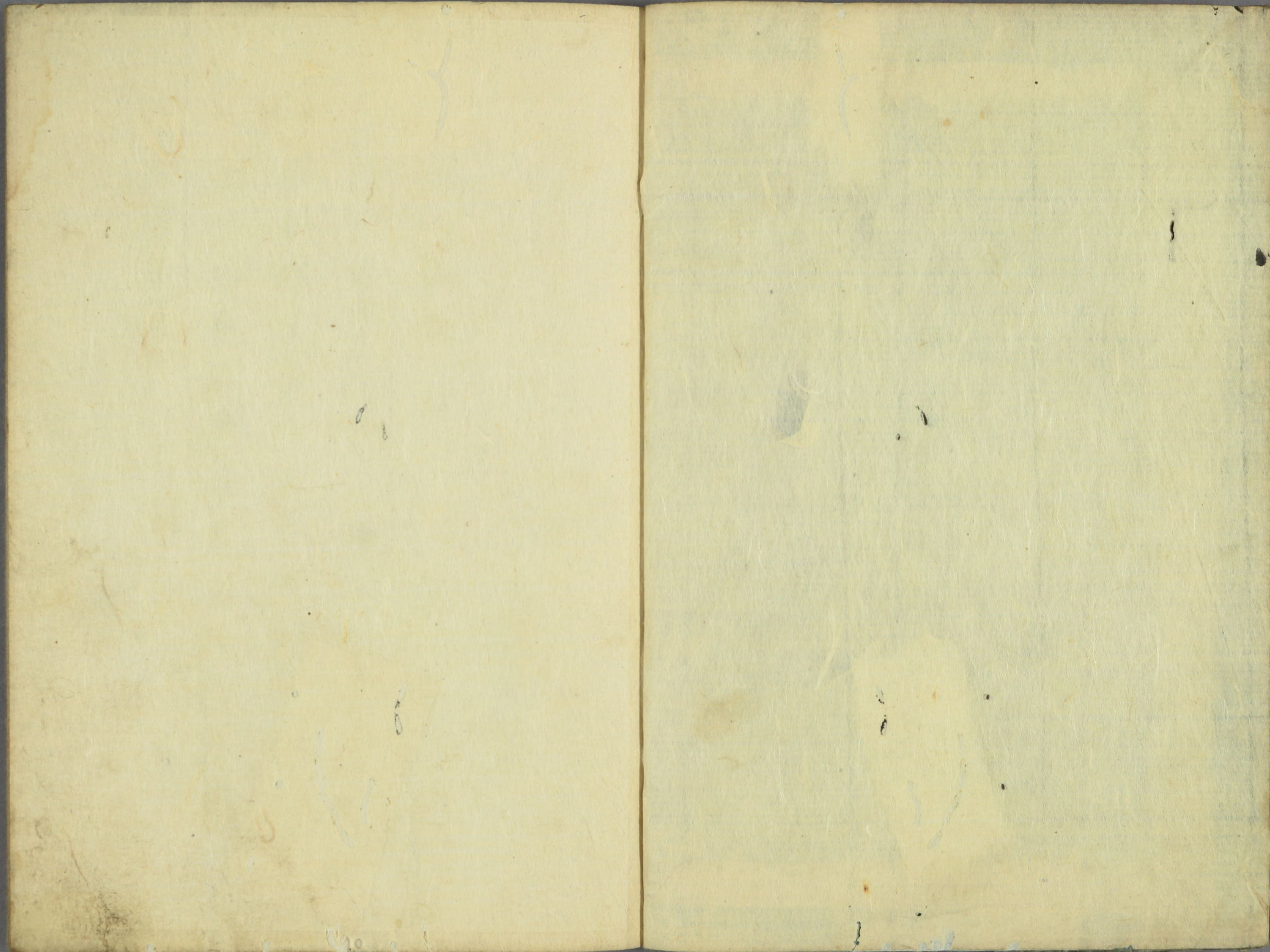


丁卯集

首





丁卯集亭

年以鼎名之亭以兩名之予舊年
勾引於風瀑而有于丙寅記行今
歲偶幸書成号丁卯集示不忘之
揆一者也

冥靈堂一晶

三箇日

雞日

去(一)年(一)當(一)亭(一)名(一)也(一)卯(一)の(一)日(一)

蚊扇

狗日

十六(一)の(一)日(一)卯(一)の(一)日(一)也(一)

全

猪日

遠(一)の(一)末(一)の(一)日(一)也(一)

全

甲(一)の(一)末(一)の(一)日(一)也(一)

五戰場

頼政扇芝

去草年りく新芝と
高名一尺の朽竹

子の徳及くなきまのふ種水

虚洞

實盛篠原

しーからき
やうん

脚とくし首くくゆき野分哉

全

兼平粟津

星霜くつと去り
かきうろと果々よ

くふの田をさうの鉄のぬり物

全

次信屋嶋

あまの松の枝刈り
昔の庭はりりや

羽り影沈信く日及浦ふ鳥

全

正成漆河

死ゆく時うちられ
わうおひんく

仲の月底ふ物あつと支の心

全

三苦一樂

貧衣

行せぬく裸一重了夏衣

琴藏

貧食

母とわいあつておの寒き乳房水

全

無縁寺

きつはつに清くさるるの松哉

滋篔

梅君墳

霜さるひ終ふ柳の古根の

全

業平墳

野のまじりてまの若草よ書くは

全

道灌墳

又月はす日過るるさるる那

全

四季暮

春暮

武家野の晦りいづるの露哉

二翫

夏暮

子露あもてし石苔あつく端居し

全

秋暮

かきと見し軒端くも煙のさき

全

冬暮

年の暮ま婦人の聲せん

△

四市

四谷市

市のつま見ふき夏の眠る者

素林

神田市

舞と歌あつとひおぬ 三三三 新賣

△

神明市

いふふの長月晴ふ市女並

△

浅草市

捨人の市見ふおぬ 作き哉

△

三降

時雨

古家やいふいふまゝに時雨

耕雲

霰

鶏の尾のくはふあまが

△

雪

朔夜の煙や氷く 雪の竹 全

四賀

鶴

鶴の雪に鶴もしらけりて根小 自休

龜

行の葉小吹くゆき門水の亀 全

松

松の葉と色小肩より木の葉籠 全

竹

雪折もなきまじくみる竹やこ竹 全

三雪

筑波雪對寺門

雪の鷹北むく寺の門寒し 輕舟

士峯雪見市

富士の根小入日やかき坂の町 全

房山雪隔海

ねの木のしらふも同くさるるが 全

四時筑波

春

筑波根の立木紫の梅は雪の事か 一楚

夏

うらまへくよ田井の浅水みそいし 全

秋

ふ霧の日の積りや水くむこふの行 全

冬

取らん草はくまろ筑波の山 全

三驛

千壽

時雨をまほしむる馬はひら 頃風

板橋

市土家小蠅をこまるとる襦衣 全

品河

馬よ寝く海の野分をよみぬ哉

三小町

襦袢

埋火下 空の印を養女とて

朔且

壮年

花の笑鏡を鑄るに工あり

全

老衰

玉造り秋海棠を漬む白く

全

五塵

色

月標目ふきりしるく一期哉

孤岫

聲

夕る海まねかす中の作色

全

香

物下に麻き好むの匂ひ哉

全

味

くさくさの草まふのうらみ水 全

觸

ふくふく音のくさくさの草 全

三旅僧

最明寺

起ちく民の鹿の子持痛水 紫翠

西行

頭陀僧たぐひのくさくさの草 全

宗祇

森のうらみ音のくさくさの草 全

三關

鈴鹿

やぶのくさくさの音のくさくさの草 素礎

不破

不破のくさくさの音のくさくさの草 全

相坂

江戸前(江)の雨を降る
全

四民

士

あゝまの(江)の雨
古刀 杉壺

農

くくく田うくく休(江)の雨
全

工

あゝ(江)の雨
全

商

初雪(江)の雨
全

四休

麩茶淡飯飽即休

蘇の(江)の雨
百字

補破遮寒煖即休

養虫の(江)の雨
全

三平二滿過即休

たまたまセナカや背うらとの 和信 全

不貪不妬老即休

たつらぬ枯木の影を思ふと 全

三蟲

蚤

蚤のくさな女あし 硯箱 丹波

蚊

妹、虫好みさふとて寝ぬおの 全

蠅

まじなや書つ蠅とておの蠅 全

三池

不怒池

鴨走りて骨かくて 肩の那 不悔

姥池

名かりたる花はくさくさ池の菱 全

鏡池

池トシ果トシく咽トシく白トシ底トシのトシおトシ原トシ

全

四鐘

春追出

物音や初宮まのりトシ翔トシまトシるトシ

紅章

夏日中

暑トシの清トシ涼トシはまトシよトシねトシのトシ下トシ

全

秋後夜

秋風や海ふ山々トシぬトシおトシのトシ鐘トシ

全

冬晚鐘

冬トシのトシ日トシや矢トシ矧トシの橋トシをトシこトシ帰トシるトシ

全

三涼

陸涼

涼場や夕日の草乃物トシさトシまトシるトシ

離思

船涼

涼ミテのミテ後ミテのミテ棹ミテとミテれミテ小ミテ船ミテ哉ミテ

全

橋涼

拾遺の秋のすみね 橋の上 全

三林

上野櫻

夕陽の音をひききぬらうら 沓洞

増上寺松

鐘の音初おらと寒くはの松 全

筑紫梅

多のころ梅をきたけり羽おし 全

四生

胎

人の口より下をたれ始り那 蘭舟

卯

あはみ羽をたれく鷺のふて歌 全

湿

花もよも草のやまがた偏り那 全

化

宜蠟ふふきのつふ小帯るま
全

三業

身

一年の綱の手ぬ回ふ盆 二日 春車

口

一ひる物ふふふふふふふふふ
全

意

一年の罪をゆきしのひか
全

三有

顔有妍醜

白鷗

梅花うや深山の櫻乃花
全

禍福有變

賣入や買ふも字々の為戒
全

命有長短

葦花ハ梅一ひの 盛るり那
全

四時

きつひのちり

日永くは猫のちり影をさくる川

朝菌

夏の鳥のちり

鷺の毛もゆるぬ浪の深さ百合

木負

煉りたるちり

煉りたるちりあまの家のちりさき

朝菌
潮菌

あまのちり

曉のちり霜うらふ寒し

木負

三草

紅花

揚木の月ふけ物やちり花

萬燈
萬輝

藍

村雨の藍のちり紫のちり花

全

麻

清野のちり麻の深さちり花

全

三大佛

京

とまろふ里榎の雨とす日那

汀波

録倉

雨を佛蟬ととう人をたれとす

公

奈良

いく時雨佛の膝のやると草

公

三賤

樵夫

りらら葉の肌ゆるきの一季

糸巾

草刈

ゆりゆちよ草刈鎌ふきらら

公

監焼

月をいぬく塩かきぬ麻衣

公

老後三愁

聾

圓か蚊いも寝覚くか

友交

齒落

おぼろくささの跡を今細の秋

今

眸昏

蝶花又眼ハ死ぬ ようい昔

今

三信

父子有信

よく寝るに厚き衣袴は余りぬ

黄龍

君臣有信

門松や命を君の参り物

今

朋友有信

夕涼の序じを隣の方と共

今

四水

春水

春のらる泡の魚のよき信

文海

夏水

京の水五月文月の向水

縮雨

伊勢

日くちまの木の葉の如く哉

色端

石清水

人の形々時雨の如く清水

今

三徳

智

生れ得くまの心蓮の葉の如く

露江

仁

くまの心華の如く葉の如く

今

勇

蟬の如く木の葉の如く

今

四藝

琴

破れくまの心琴の如く

吐拙

碁

年々ぬまの碁の如く

今

書

年徳不養〜〜〜

全

畫

元亨の所の徳家〜〜

全

三教

儒

安の安〜角ちき〜

兼包

釋

〜〜佛の安の〜

全

道

元亨や柳子の〜

全

三潮干

塚

お〜とま〜〜

寛茂

品河

武蔵野ふ〜〜

全

土佐

去依の汝千毅の硯かきさるん

全

三湖

近江

紫船下を移うく夏あひまが

貞圓

二荒

氷の鶴ふすおのあ

全

箱根

この瀟瀟はふ折るんさるん

全

三森

王子

森陰のふの霜をき及帰猿

九石

吾妻

朝日影を霞一版森高

全

鈴森

京まゝのふたまたたきん郭云

全

三塘

高繩塘

牛馬のひり牛のあつたまは

春鋤

日本塘

豊うあつ田のうき食う田植り那

全

柳原塘

捨柴の霜踏かろい雀りぬ

全

三更

後夜

園病く女口の月みる梅替

八分

夜半

夜中あつく女つぼむ京の町

全

暁

暁の首顔揺るうつれ

全

四塔

上野

近極塔の南の日影の那

無价

浅草

川船の塔の鈴守又涼と

全

増上寺

霧の隙沖とよりの輪鼓

全

谷中

塔五重を女の町屋の落世水

全

三山

東叡山

法の市を不眠なきの宿世水

桐園

待乳山

夏の日向去鶴の林麓の那

全

愛宕山

尾花とて貝のくねねの高根水

全

太極

天地の印とて山の方のま

銷遣

八景

夜雨

雨夜や蟬きく音

夜の雨

一品

秋月

あゝ冷くも水も塵もきつ蟬の月

全

晴嵐

吹たひや木の葉もまゝる市の色

全

晚鐘

乃よ辛夷コナシ鐘のきり響ふ行煙

全

歸帆

枯草の折葉もさるる舟の帆

全

夕照

うららかなる夕照も釣るる舟が

全

暮雪

川の隅スミや舟も空もはらと雪の音

全

落馬

鳥を継ぐ十孝の軽く天地の

全

